

関連する『つまずきポイント』

- ①自分の考えをもつこと
- ②日常生活や社会生活と結び付けること

話すこと・聞くこと領域

- ・日常生活や社会生活にかかわることについて話すこと
- ・相手や場に応じて自分の考えを話すこと
- ・表現の工夫を評価して聞き、自分の考えをもつこと

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

洲本市立青雲中学校の実践

第3学年 相手や場に応じて話し方を考えて話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くこと

第2学年 相手の立場や考えを理解し、互いの発言を検討して自分の考えを広げること

第1学年 状況に応じて話を構成して話し、自分の考えとの共通点・相違点を整理して聞くこと

身に付けさせたい力の系統

各段階におけるつまずき

第3学年

- 社会的、日常的な事象について、資料や事実から自らの考えを深め、相手や場に応じて話ができること。
- 相手の話の内容や表現から自分の考えを深められるよう聞くこと。

- 状況に応じて自分の考えをまとめ、伝わりやすい手法をもって話すことができない。
- 聞いた内容から自分の考えをよりよいものにすることができない。

第2学年

- 相手からの反論・意見を踏まえて自分の考えを話すことができること。
- 相手の話の要点を聞き取り、自分の考えと比較できること。

- 自分の意見を明確にし、相手の意見を予想しながら話すことができない。
- 相手の最も伝えたいことに注意して自分の考えをもつように聞くことができない。

第1学年

- 自分の体験・資料などから自分の考えをまとめ、適切な言葉で話すことができること。
- 会話の要点をメモに取り、聞くことができること。

- 出来事・事実を踏まえて、自分の考えをまとめ、話すことができない。
- 相手の伝えたいことの内容をメモに取りながら、理解するよう聞くことができない。

つまずき解消に向けた取組の視点

① テーマを決めた上で、ワークシートなどに自分の立場と意見の内容を整理する。

→ テーマごとに根拠を明示することで伝わりやすくする。

→ 考えさせたい視点に沿って、意見を交流し合うことができるようになる。

② 自分の考えをまとめる段階でグループでの交流を取り入れる。

→ 新たな考えを得たり、自分の考えを客観的に見直したりできるようになる。

話すこと・聞くこと

第1学年

状況に応じて話を構成して話し、自分の考えとの共通点・相違点を整理して聞くこと

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

論題…『学校の昼食は弁当が良い。賛成か反対か。』

「お弁当がよいと思うのは、自分の好きなものが入っていたり好きな量だけ食べられたり家の人の愛情が感じられたりするときによいと思います。なぜなら、自分の好きなものが入っていると嬉しいし、食べていて楽しいからです。給食だと残したらいけないから食べられないと思った時につらいし、お弁当だと残しても大丈夫だからです。頑張って作ってくれている家の人の姿をみると愛情が感じられます。」

聞く側はメモを取っていない。

情報量が多く、聞きやすい発言ではない。

実践の概要

単元名

話題や方向性を捉えて話し合おう

『話題や方向性を捉えて話し合おう』光村図書

目標 集めた情報を整理し、自分の発信した情報が説得力をもつように話す。

メモを取ることで相手の伝えたいことの要点を逃さずに聞く。

内容 ・自分の意見に合った資料を集める。

・伝えたい内容を整理する。

・模擬ディベートを行い、話し方・聞き方を確認する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。 相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

単元末の目指す姿

- 自分の意見を明確にし、体験・資料などの事実に基づいて意見を発表することができるようになる。
- 相手が発表する際、必要に応じてメモを取りながら、相手の伝えたいことに注意して聞くことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

ワークシートを用いて集めた情報をまとめ、意見や根拠として発言の内容を整理させる。

活動のねらい▶ 伝えたいことに基づいた情報になっているかどうかを検討することができる。

ここがポイント

- テーマについて意見を一致できるように、立論文の骨子を班員全員で考える。
- 立論したものを軸にして意見や予想される反論を考える。
- 相手の発言を想定し、考えられるパターンをすべて書く。

ワークシート

			骨子
↓			根拠となる情報
↓	↓	↓	予想される反論
↓	↓	↓	反論に対する意見・情報

※個々の情報だけでなく、「骨子」「情報」「反論」「意見」がつながっているかどうかについても検討する。

(期待される生徒の姿)

生活体験や資料から考えた自分の意見を書き、班内で意見交換をすることで、資料のとらえ方や自分の意見を深めることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★深い学びにつながる実践

ディベート本番に向けて、グループで練習し、情報の提示のしかたなど、相手を説得させるための発言になっているかどうかを検討する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 相手を説得するための話の構成や内容について理解を深めることができる。

ここがポイント

- 逆の立場に立って聞き、説得させられる内容になっているかどうかを検討させる。
 - グループで検討する前に、既習事項を想起させ、「構成」「情報量」「話し方」等、検討する視点を確認する。
- ※情報量が多すぎると主張が伝わりにくくなることを確認する。

グループでの練習

逆の立場になって聞くと、その情報だと納得しないと思う。



先に結論を述べて、順序を表す接続語を使っているから、伝えたいことがわかりやすい。

(期待される生徒の姿)

- 反対の立場からの意見も考えることで、どのような意見を提示すれば相手を納得させられるかという見通しをもつことができる。
- 検討を通して、自分の発言を客観的に振り返り、ディベートに反映させることができ、深い学びにつながる。

話すこと・聞くこと

第2学年

相手の立場や考えを理解し、互いの発言を検討して自分の考えを広げること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

- ・自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。
- ・相手の意見を踏まえて、自分の考えをもつことができない。

(1)は書けたが、
(2)自分と逆の立場となると、書けないし、伝えられない。
(生徒2)

問 「射倒す」とあるが与一が男を射たことについて、

(1)「あ、射たり。」と言った人の気持ちを考えて、現代語の話し言葉で書きなさい。

・与一が見事敵を射て、命中して嬉しいから。(生徒1)

(2)「情けなし。」と言った人の気持ちを考えて、現代語の話し言葉で書きなさい。

・無回答 (文末のみ…だなあ)
(生徒2)

(「扇的」より)

自分と同じ立場であればある程度書けるが、内面の深くまで考えられていないため、自分の意見がなくなってしまう。(生徒1)

実践の概要

単元名

登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう

『平家物語』 光村図書

目標 相手の立場や考えを理解し、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

- 内容
- ・自分の意見を話し言葉でまとめる。
 - ・自分と同じ意見を聞いて考えをまとめる。
 - ・逆の立場の意見を聞いて考えを深める。
 - ・両方の立場の意見を聞き、自分の考えを広げる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。 ・相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

単元末の目指す姿

- ・自分の意見を具体的に考え、ICT機器等を活用し、自分の考えをまとめ、発表できるようになる。
- ・人の意見を聞いてその思いを尊重し、お互いの立場に理解を示すなど幅広い視野で物事を考えられるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

項目を示したワークシートを用いて発表する内容をまとめさせる。

- 活動のねらい▶
- あらかじめ話す内容を整理し、考えたことと話す内容に一貫性をもたせる。
 - 観点を揃えることで、話し合いにおいて考えを深めることができる。

ワークシート

テーマ

「射倒す」とあるが与一が男を射たことについて

(1)「あ、射たり。」と言った人の気持ち

• 舞っている者も射ることができるとは、与一の腕はすばらしい。

(2)「情けなし。」と言った人の気持ち

• 敵といっても、こちら側の腕を認めてくれている人なのにひどいことだ。

(3)自分は(1)(2)のどちらの立場に近いか。

• (2)の立場に賛成。与一の腕を認めてくれたのに、殺してしまうとは、あまりにもひどいと思った。

ここがポイント

発表をする際には、原稿を読まず、自分の言葉で説明するように指示する。

(期待される生徒の姿)

自分の立場が明確になり、話し合いの際に、同じ立場からは表現の工夫を、逆の立場からは考え方の違いを学ぶことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

各自で意見を考えた後、立場を明確にして考えを交流する活動を行う。

- 活動のねらい▶
- 立場による意見の違いを比較し、自分の考えに反映させることができる。

ここがポイント

- 「誰が」「どの立場で」「どのような意見を言っているのか」を整理してメモするように指示する。
- 考えを比較させたい時など、必要に応じて、生徒の発表用ワークシートをスクリーンに投影する。

考えの交流



ワークシートで、どちらの立場の気持ちも考えていたから、逆の立場の言いたいこともよくわかるな。

この意見を使って、自分の考えに書き加えよう。

(期待される生徒の姿)

- 話し合いの中で、同じ意見を聞くことによって考えをまとめられる。
- 逆の立場の意見を聞くことで自分の考えを広げられるようになる。

第3学年

話すこと・聞くこと

相手や場に応じて話し方を考えて話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くこと

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。



全国学力・学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力の育成をめざした授業の構築」が課題であるとされ、主体的・対話的で深い学びになるための授業の構築を図る必要がある。ICTの活用等を推進し、言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図ることが大きな課題となっている。

実践の概要

単元名

言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう

『初恋』 光村図書

目標 島崎藤村の「初恋」を朗読し、藤村の恋人への想いを恋文にし、交流し合う。

- 内容
- ・藤村の恋人への想いを考える。
 - ・昭和初期の時代に合った言葉を書き出す。
 - ・恋文をつくり、グループで交流する。
 - ・自分の発表する姿を動画で確認し、振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none">・自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。・相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

単元末の目指す姿

- ・自分たちを動画で確認し、その場で何度も振り返りをするすることで、抑揚や目線、身ぶりなどを工夫してより伝わるように話し方を変えることができるようになる。
- ・繰り返すことで、自分たちで言葉の根拠や意味を深く考えるなど、話し方・聞き方を工夫するようになる。



つまずき解消に向けた指導の工夫

説明している様子や話し合いの様子を動画撮影し、動画を見ながら振り返りを行う活動を取り入れる。

活動のねらい▶ • 内容や話し方について、その場で振り返り、考えることで、自身の発表内容や話し方にいかすことができ、相手への聞き方も深めることができる。

ここがポイント

- 何について振り返るのか、視点を明確にしておく。
- タブレット等で撮影したり確認したりすることを日常的に行い、自分の姿を客観的に見直すことに慣れさせる。

動画を用いた振り返り



(期待される生徒の姿)
 タブレットの動画機能を使うことで、黒板に読んでいる姿が提示されるので、発表者も聞く側も同時に映像で確認ができる。また、すぐに再生でき、拡大もできるため、発表内容や話し方等振り返らせた内容を焦点化させて、改善方法を話し合うことができる。

ここがポイント

自分の意見を改善する際にも、もう一度動画が見たい場合があれば、確認させる。必要に応じて、動画を見ながら全体で修正箇所について話し合う活動を取り入れる。

振り返りを通じた改善



(期待される生徒の姿)
 ワークシートに自分とグループの感じたところを書いていく。交流後にすぐに振り返りが動画のできるの、修正箇所を分析し、自分の意見に反映することができる。